

31年2月分

問屋、仲買・小売商の先行き動向調査

1. 調査実施期間

平成31年 2月1日～ 31年2月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の問屋、仲買・小売商に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は41社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
仕入動向	国産材	△ 1.5	6.1	3.2
	外材	△ 5.1	3.8	6.8
販売動向	国産材	△ 7.6	3.0	3.2
	外材	△ 4.1	8.1	2.9
在庫動向	国産材	0.0	△ 3.1	△ 6.7
	外材	△ 5.4	△ 4.1	0.0

・国産材、外材の仕入・販売動向は2月の減少から3月、4月は増加に。

・国産材の在庫動向は2月の横ばいから3月、4月は減少に。外材は2月、3月の減少から4月は横ばいに。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目	31/2月	3月	4月
スギ正角(グリーン)	2.1	2.1	2.3
スギ正角(KD)	5.8	1.9	2.1
ヒノキ正角	3.7	1.9	2.0
ヒノキ土台角	3.7	3.7	2.0
米ツガ正角(現地挽)	2.3	2.3	4.5
米ツガ防腐土台角	4.2	4.2	6.3
米ツガ割物(現地挽)	4.5	4.5	4.5
米マツ平角	3.7	1.9	0.0
北洋アカマツタルキ(現地挽)	15.0	8.3	5.4
ホワイトウッド集成管柱	9.3	5.6	2.0
レッドウッド集成平角	0.0	△ 2.2	0.0
型枠合板(輸入)	9.6	5.8	10.4
針葉樹構造用合板	14.0	4.0	13.0
針葉樹構造用合板(厚物)	6.3	4.2	11.4

・スギ正角はグリーン、KDとも保合。
・ヒノキは正角、土台角とも保合。
・米ツガ正角(現地挽)、防腐土台角、割物(現地挽)とも保合。
・米マツ平角保合。
・北洋アカマツタルキ(現地挽)強含み。
・ホワイトウッド集成管柱保合。
・レッドウッド集成平角弱含み。
・型枠合板(輸入)強保合。
・針葉樹構造用合板は強含み。厚物は保合。